

日本語を学ぼう！国際交流をしよう！

茨木市には、さまざまな事情で学校教育を受けられなかった方や母国を離れて新たに日本で生活をしている方がおられます。

その方たちが文字を学び、会話の力をつけることで、より豊かな社会生活が送れることを目的として、日本語の学習会が開かれています。

今回は、中央公民館が主催する「日本語読み書き学級」と茨木市国際親善都市協会活動組織である「茨木市実用日本語学習会」を紹介します。

日本語読み書き学級

日本語読み書き学級では、約30人が日本語を学んでいます。日本における生活の期間、おかれている状況、年齢の違いなどで学習のニーズが多様なため、個別に対応しています。

ある女性は、カタカナを練習していました。いずれは漢字も覚えて、子どもが幼稚園で借りてきた本が読めるように、病院や学校で子どもの名前が書けるようになりたいとのことでした。

ある男性は、身体障害のために義務教育を受けられなかったため、成人になって夜間中学校、定時制高校と学び続けてきました。現在、この日本語読み書き学級ののち・愛・ゆめセンターで学びながら聴講生として大学にも通っています。



「日本語読み書き学級」学習風景

休憩の時間には、学ぶ人と教える人が一つになって、季節に合わせた歌を歌っていました。時にはそれぞれの出身地の歌も披露されるそうです。

ここでは、異文化理解、国際交流が自然に行われています。

茨木市実用日本語学習会

茨木市実用日本語学習会には、16の国と地域、約120人の学習者がいます。支援者は学習者に日本語や文化を伝えるために、さまざまな工夫をしています。時には、絵やカード、写真などをうまく利用し視覚にうたえるなどして対応しています。教え方も大切ですが、伝えようとする熱意を持って学習者の気持ちに寄り添うことが、長い目で見るという結果につながるそうです。

この学習会は、日本語上達の場合だけでなく、交流の場にもなっています。

「学習者には、心の壁、制度の壁、言葉の壁に突き当たる人もいます。ここでは、心の壁と言葉の壁が取れるようにサポートしたいと思っています。学習者に日本を好きになってほしいですね」と支援者は話されています。学習者の心のサポートをするために、また異文化に触れるために、春と秋の遠足、各国の料理の持ち寄りパーティー、お茶会での



「茨木市実用日本語学習会」学習風景

お手前などさまざまな催しを行っています。支援者は、「地域にこのような支援するグループがあることを知ってほしい。とにかく孤立せずに仲間に入ってください」と話されていました。

- 日本語読み書き学級
金曜日 10:00~12:00
中央公民館（生涯学習センター）
TEL 622-1256
- 茨木市実用日本語学習会
木曜日 13:30~15:00 金曜日 10:00~11:30
茨木市役所南館 8階交流サロン
TEL 090-3868-1346（新山）
- 識字教室「かがやき」
火曜日 19:30~21:00 木曜日 10:00~11:30
郡山日本語教室
火曜日 19:30~21:00（郡山公民館で開催）
豊川ののち・愛・ゆめセンター TEL 643-2069
- さわらぎ識字・日本語教室
月曜日 19:30~21:00 木曜日 10:00~11:30
沢良宜いのち・愛・ゆめセンター TEL 635-7667
- 総持寺識字・日本語教室
木曜日 19:30~21:00
総持寺いのち・愛・ゆめセンター TEL 626-5660

近づく春を訪ねて

～安威川付近の野草を観察しよう～

春が近づくと、あちこちで野草が顔を出し始めます。野や山ではさまざまな野草が花を咲かせ、「小さな春」を感じさせてくれます。

茨木市を流れる安威川では、どのような野草が見られるのでしょうか。茨木市環境教育ボランティアで、昨年、生涯学習センターで催された短期講座、「秋の植物に親しもう」の講師の皆さんに、2月中旬頃から4月頃に花を咲かせる野草のいくつかを紹介していただきました。



オオイヌノフグリ
（ゴマノハグサ科）



ホトケノザ(シソ科)

日差しがやわらかくなる3月下旬には、タンポポの黄色い花が河原を敷きつめていきます。近年は、各地で日本在来種のカンサイタンポポが減り、荒れ地に強く冬にも花を咲かせる外来種のセイヨウタンポポが増えています。安威川では両方の花が見られます。花の基部を包む緑色の細い葉のような総苞外片がそり返っているのが外来種です。

ツクシも顔を出してきます。スギナは胞子で増えるシダ植物。ツクシはその胞子茎で、普通の草の花と同じ役割を担います。栄養茎のスギナとは地下の根茎でつながっている同一の植物の別器官です。



ミドリハコベ(ナデシコ科)



カンサイタンポポ(キク科)



セイヨウタンポポ



ツクシ(シダのトクサ科)

白い小さなハコベの花に目を向けましょう。花びらが10枚のように見えますが、5枚の花びらがそれぞれ深く2つに切れ込んでいるのでそのように見えるのです。ハコベは、春の七草の一つで、在来種のみどりハコベに、今は外来種のコハコベも加えた呼び名です。安威川にはコハコベが多く見られます。

4月に入ると、セイヨウカラシナの花が堤防を黄色に染め上げていきます。「菜の花」と呼ばれますが、「ナノハナ」という種名の植物はありません。アブラナ科アブラナ属の黄色い花の総称です。日本の春を象徴する花になっていますが、外来種で、セイヨウカラシナは戦後に広がりました。



セイヨウカラシナ
（アブラナ科）